

次世代につなげる森林づくり



R5.11.6 第48号

林業成長産業化に資する技術力の向上～ICT研修 (令和5年10月17日～20日)

林業成長産業化構想技術者育成研修の四国ブロック研修を、自治体、民間林業事業者の方々にご参加いただきグループワーク形式で開催しました。

この研修は、林業成長産業化に資する技術力の向上を目的に、ICT等の最新技術を活用して森林資源や地形の把握を行い、効率的な林道整備計画や地域の特性を考慮した森林整備計画を検討し、作成するものです。

今回は、高知県中土佐町にある新道山国有林と隣接する私有林を対象に、およそ1,000haの森林について10～20年先を視野に全体構想を踏まえて、林業専用道計画(10年分)と森林整備計画(5年分)を策定し、研修最終日に中土佐町の林務担当者に向けてプレゼンテーションを行う内容で実施しました。



1日目は、外部講師等から、演習地等の概要説明を受け、QGIS(地理情報システム)、FRD(林道・路網の設計ソフト)等のツールを活用した路線の検討を行い、そのあと「地域特性に応じた森づくりの構想」(講義)を受講しました。



2日目の午前中は、「ドローンによる森林資源の調査」として、演習地の森林資源の状況、路網設置の可否等についてドローンを活用しながら確認を行い、そのあと森林整備課専門官から、林道の勾配や昨年工事箇所についてのミニ講義を受けました。午後は「森づくりの検討」として、現在の森林の混み合い度を評価し、周辺状況や森林の機能等を考慮しつつ、各班で今後の森づくりについて検討した結果を発表していただきました。



3日目は、プレゼンテーションに向けた準備です。演習地の森林整備計画や木材生産計画(5年分)及び林業専用道計画(10年分)をFRDやQGIS等を駆使して、各班で構想案を作成しました。



4日目は、各班がそれぞれ策定した構想案について発表を行い、活発なディスカッションが行われました。

受講生からは「路網の配置計画は初めてだったので勉強になった」、「ドローンの映像と地図が合うよう訓練をして普段から活用したい」、「QGISの操作方法を学ぶことができた」、「班内で議論するよりも資料づくりに追われてしまった」、「時間の余裕がない中、プレゼン資料の作成は厳しかった」等の感想が聞かれ、有意義な研修となりました。

この研修から学んだことや、感じたことを地域林業の成長産業化に活かして頂きますよう、受講生の今後のご活躍を期待しています。



各種試験調査のお問い合わせは
四国森林管理局 森林技術・支援センター

☎ 088-821-2250
e-mail shikoku_gijyutu@maff.go.jp